

2019年5月24日
井関農機株式会社

2019年12月期 第1四半期 決算説明会
質疑応答要旨

**(問1)国内の業界出荷は拡大傾向にあるが当社の状況は？
また、直近の需要環境をどの様に見ているか？**

(回答)

- ・昨年、トラクタの60馬力クラスで全農の一括購入による出荷増があった。当社含めた競合他社でもほぼ同馬力の低価格トラクタを投入し、60馬力クラスの市場が活性化しており、業界出荷金額全体の底上げに繋がっている。当社はこのレンジの実売は業界平均以上の進捗である。
- 一方、100馬力以上のトラクタで新商品の投入遅れがあり1～3月実売を落としている。高額商品であるため影響はより大きい。第2四半期は北海道、東北、関東などで1～3月の遅れをまずは大型トラクタで挽回していく。

(問2)消費税増税による駆け込み需要をどの様に見ているか？

(回答)

- ・第1四半期では前寄せ感はあまりなかったと考えている。しかし、本来なら1～3月はトラクタ、田植機など春商品の販売時期だが、秋商品であるコンバインが台数を伸ばしてきており、これは増税を見越した効果であると思っている。
- 6月、7月にかけて各地で展示会を開催する。その時期には増税前寄せの効果を含めて、恐らく昨年よりはプラスで9月までの需要は伸びてくると考えている。

(問3)中国とアセアンの在庫調整はどのくらいまで続くか？またアセアン地域の在庫調整はタイだけか？

(回答)

- ・中国の在庫調整は今年いっぱいかかるであろうと考えている。
- タイは今年の下期に新商品を投入予定であり、現在当社からの出荷を抑えて在庫縮小に向かっている。新商品の投入までに在庫を調整し、下期に本格回復する。なお、在庫調整はアセアン地域ではタイだけ。

以上

将来予測に関する免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、2019年12月期第1四半期決算説明会開催日(2019年5月16日)時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。